

○福岡地区

現在の福岡町は、旧北陸道の両側に町家が建ち並び町並みを形成しているが、旧北陸道開通以前は大蔵町・清水町が福岡町の主な町立であり、街道開通後に主としてこの2地区の住民が交通の便利さから街道上へ転出して次第に町並みを作り上げられたとされている。「町立」といいながらも、当時は商家数は意外に少なく、これは福岡町の産業の中心は菅笠・菅草の生産及び集散にあったためと考えられている。

福岡町における菅笠生産は、江戸時代になってから加賀藩の奨励を受けて本格的に始まった。江戸時代中～後期になると独立した笠問屋が福岡で多くみられるようになり、藩の産物会所が設置されることにより発展し、幕末～明治ごろに最盛期を迎えた。近代以降も昭和30年代までは盛んであり、福岡町は菅笠の一大生産地であった。以前菅笠問屋であった町家も残されている。年々、出荷高は減少しているが、現在でも全国一の高品質な菅笠を出荷し続け、その出荷高は全国シェアの9割以上を占める。

旧北陸道沿道には、現在でも町家が建ち並び、その敷地背後には蔵も数多く残されている。特筆すべき点は、戸口構えを残す古式の町家が非常によく残っている点で、他地区で戸口構えを残している町家がわずかな例を除きほとんど見られなかったことを考慮すると、非常に貴重であるといえる。

また、そういった町家が現在も住み継がれており、手入れが行き届いているという点も福岡の景観に寄与している要素といえる。

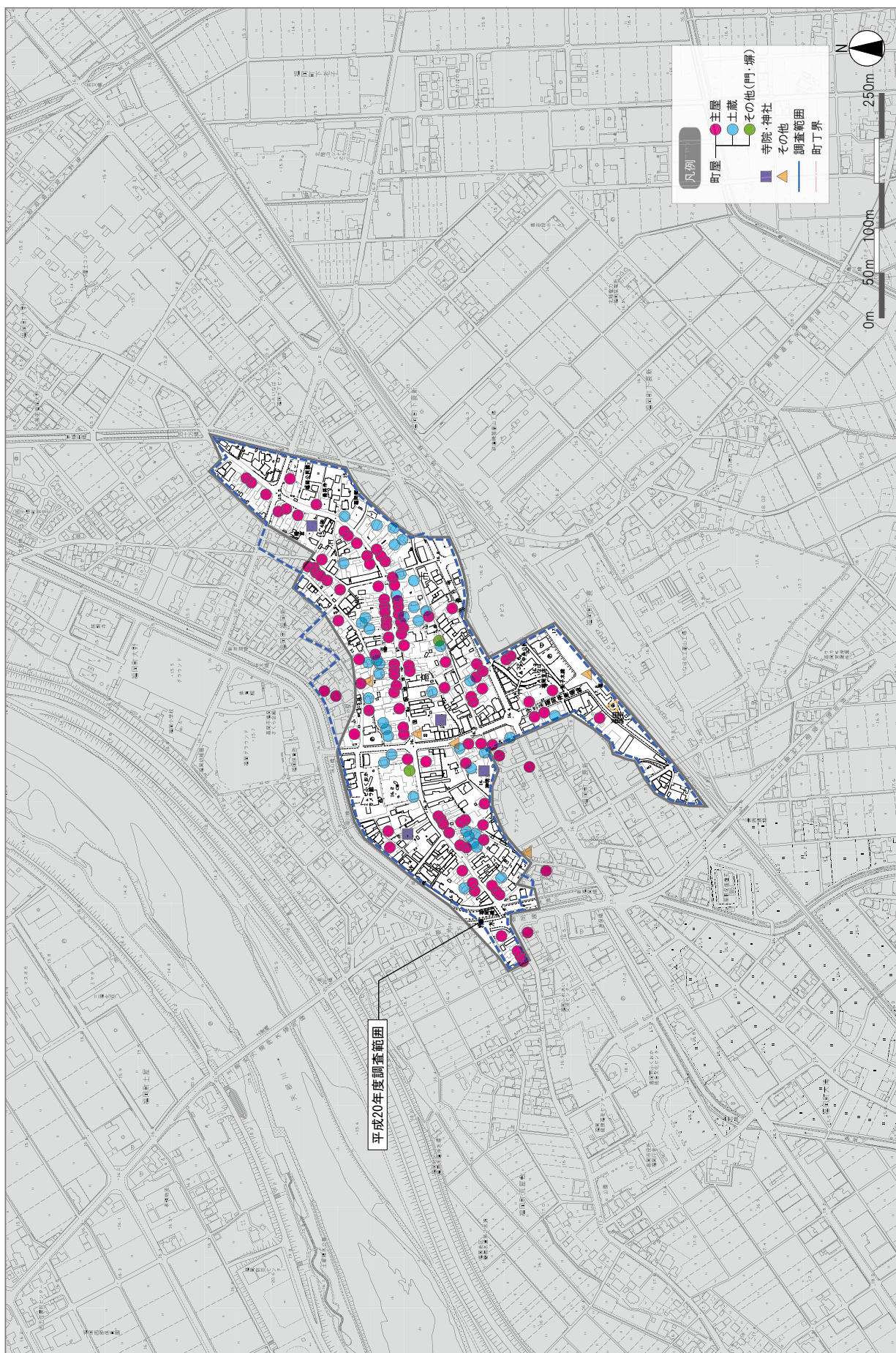
町家以外にも往還松が随所に見られ、岸渡川の桜並木・水路等、様々な景観要素がみられる。



福岡町の旧北陸道沿道の町並みの様子



福岡町の旧北陸道沿道の町並みの様子



福岡地区の残存・分布状況

○戸出地区

元和3（1617）年、下中条村の豪農であった川合又右衛門が加賀藩から戸出野を開墾することを許され、後の戸出町となる戸出村を誕生させた。この地域は、開墾される以前は原野を切り開いた農村集落が点在している地域であった。

戸出村は、金沢と富山を結び、かつては北陸道の往還筋であった戸出・中田往来と、高岡城下と南砺の城端・井波に通じる往来（戸出道・井波道）が交差する交通の要所で、なおかつ千保川の舟運を活用することができる位置でもあり、立地に恵まれた地であった。

戸出村では市（六斎市）が開催され、付近の村々の中心的存在となり、商家も増加し次第に「町」としての形態を整えるようになった。後に、市は廃れてしまうものの、交通の要所であったため宿場町としても発展し、また、加賀藩の御蔵所としても発展した。

現在は、かつての戸出・中田往来、戸出道沿道を中心に町家が多く残り、中には古式を残した主屋も数棟見られる。町家の短冊状の敷地背後には蔵が多く残されている。

戸出・中田往来と戸出道との交差点には、石田薬局や鮮魚角幸など現役の商店である町家が残っており、戸出地域の中でも特に景観に寄与しているといえる。石田薬局に関しては、蔵を含む屋敷構えが残っており貴重である。

また、地区内には水路が見受けられ、景観の重要な要素となっている。



戸出・中田往来と戸出道との交差点



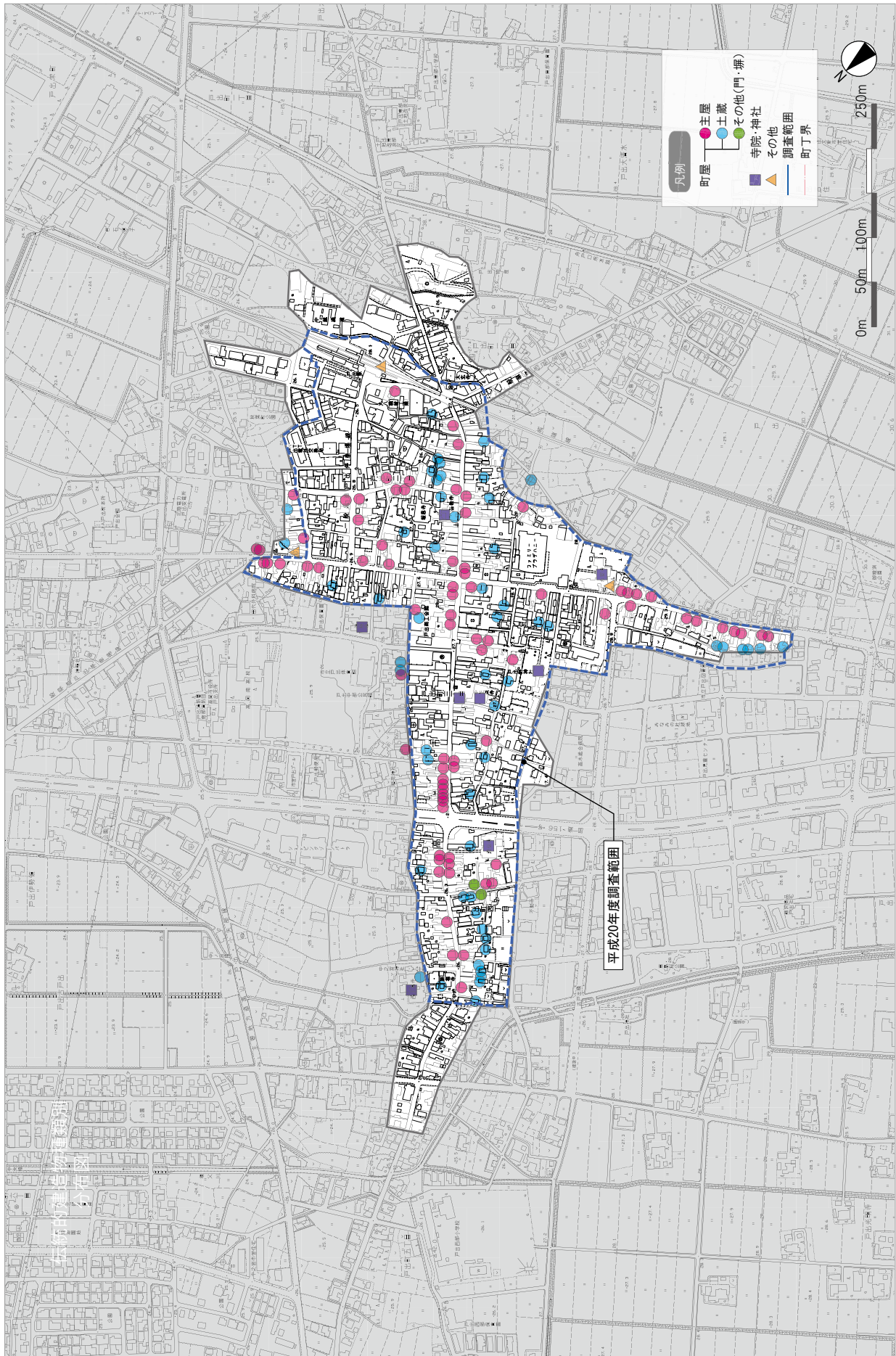
地区内の戸出・中田往来沿道の町並みの様子



地区内の水路



地区内の水門



戸出地区の残存・分布状況

○中田地区

中田町は、「勝興寺系図」の文明13(1481)年条に、中田村として現れる古い集落である。

慶長20(1615)年、藩から中田村肝煎・惣百姓中宛に「宿送人足伝馬之御印」が下付され、すでに往還(戸出・中田往来)の要点となっていた中田村はこの時より公式に宿駅の箇所位置付けられ、宿場町としての活動を始めた。中田村は庄川右岸で最も人や物が集まる所で、早くから九斎市が開かれ、往来沿いに町並みが発達してきたためか明暦2(1656)年の村御印では早くも中田町となっていた。

正保3(1646)年には、藩により中田に御蔵が置かれ、最も多い時期で13戸前の御蔵が置かれた。新開川から和田川・庄川を経て、吉久、伏木の御蔵まで舟で運ばれた。

中田では、天保2(1831)年、吉田三余堂主人が富山売薬にならって売薬を始めたとされており、明治以降の記録によると、砺波郡の中で中田の売薬は群を抜いていた。明治・大正時代共に売薬は盛んで、大正14(1925)年には共同の企業体(中田製薬株式会社)を成立させるに至った。その後、他の営業所や株式会社、個人営業者との合併・統合等を経て、昭和16(1941)年「報国製薬株式会社」を発足、後に「共栄製薬株式会社」と社名を変更し、現在もなお営業している。

かつての北陸道(戸出・中田往来)沿道に町家がよく残っており、戸出地区と同様に敷地背後には蔵もよく残されている。また、調査地区西側に関しては特に、町家の主屋及び蔵の背後に畑が付属しているものがよく見られ、中田の景観の特徴ともなっている。

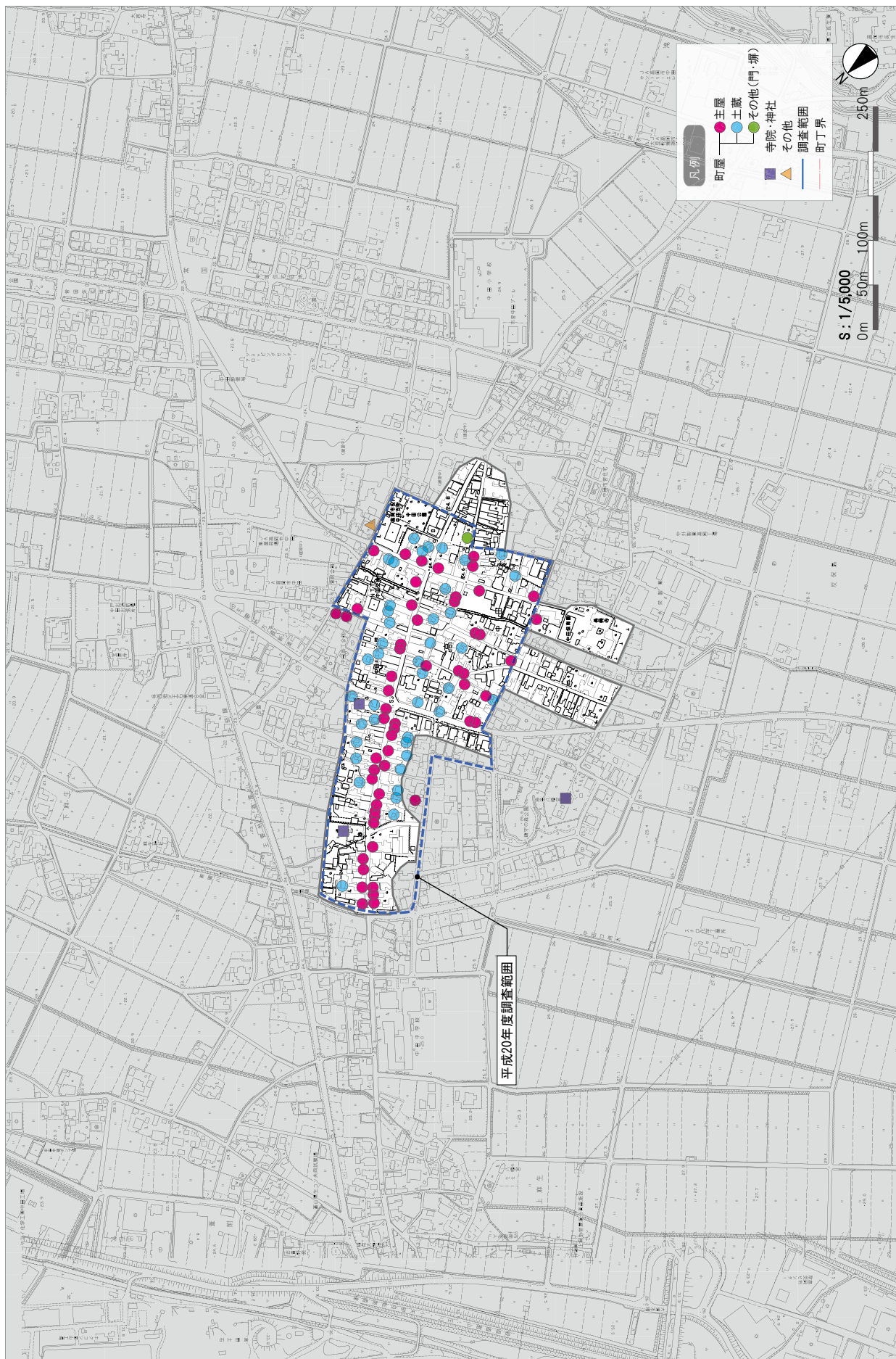
町家の中でも、比較的規模の大きい町家も数棟残されていた。空家が比較的多かったことが今後の懸案事項であるといえる。



地区内の戸出・中田往来沿道の町並みの様子



地区内の比較的規模の大きい町家



中田地区の残存・分布状況

○出来田、米島地区（集村集落）

米島・出来田地区に関しては、「③調査のプロセス（type2-1）」に示したように既往調査（※1）において対象として挙げられている建造物について、追跡調査を実施した。両地区共、敷地割が大きく、主屋はアズマダチ民家で門や塀等による農家の屋敷構えを良好に残した集落である。

出来田地区は特に敷地割が整然としており、集落内には水路が通っている。平成15年の既往調査の際に確認されていたアズマダチ民家は全て現存していた。主屋がアズマダチ民家ではなくても、敷地割や塀等の屋敷構えは継承されており、地区内の水路と共に重要な景観要素となっている。米島地区は道路が網の目状に通っており、面的に集落が形成されている。出来田地区と同様に平成15(2003)年の既往調査の際に確認されていたアズマダチ民家は全て現存していた。地区内での、アズマダチ民家を持った屋敷構えを残す農家の割合は高くないものの、比較的良好に残存しているため、歴史的な空間性を有していると言える。

両地区のように、集村集落の形態でアズマダチ民家を含めた農家の屋敷構えをある程度まとまって良好な状態で残している地区は市内でも少なく、両地区は貴重であるといえる。一方で、地区内を集落として捉えた場合、地区内や周囲の市街地化や工場地化、道路の新設等に見られるように、今後、無秩序に周囲の環境が変化していくことが懸念される。



出来田地区内の屋敷構えの様子



出来田地区内の水路の様子



米島地区内の民家



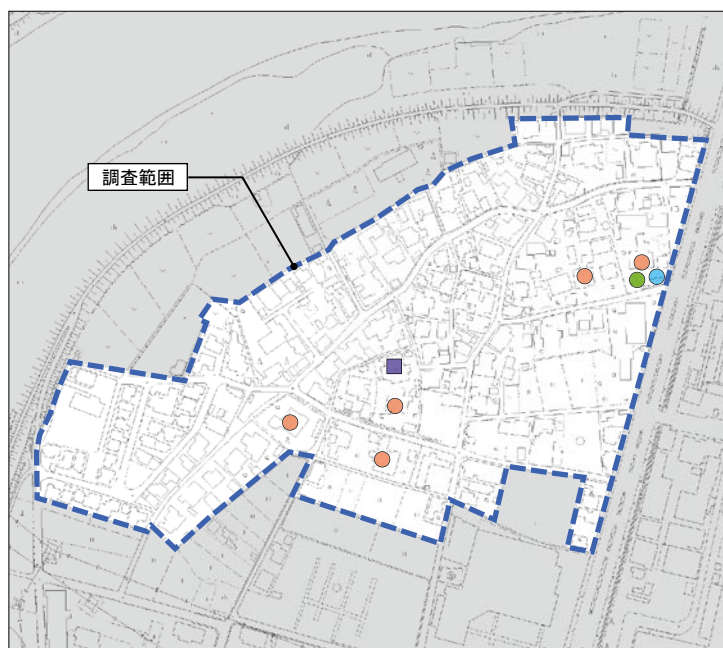
米島地区内の様子

※1 砺波平野とその周辺のアズマダチ民家の調査（第2報）

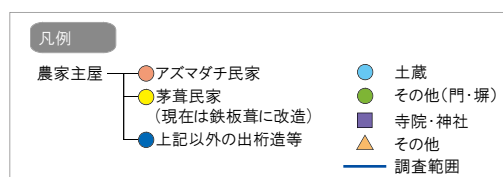
砺波散村地域研究所研究紀要 第20号／新藤正夫・古川春夫・安力川恵子・野手雅子／2003年3月



出来田地区の残存・分布状況



米島地区の残存・分布状況



○戸出吉住地区（散村集落）

戸出吉住地区に関しても、「③調査のプロセス（type2-1）」に示したように既往調査において対象として挙げられている建造物について、追跡調査を実施した。

戸出吉住地区は、屋敷の周囲に耕作地があり、敷地と敷地の間隔をある程度保つ散居としての形態を持ちつつ、その散居がある程度まとまり、全体としては集落を形成している地区である。

調査の結果、平成15(2003)年の既往調査の際に確認されていたアズマダチ民家はほとんど現存していた。主屋がアズマダチ民家であるかなしかに関わらず、カイニョ・塀・門等の屋敷構えも良好に残存している。砺波市立砺波散村地域研究所によると砺波平野の中でも、これほどまとまって、主屋がアズマダチ民家である散居を残している散村集落は少ないとのことであり、非常に貴重である。屋敷の周囲にカイニョを持つという特徴があり、その点においても集村集落の農家とは異なる。

集落内の一部の耕作地がミニ開発によって宅地化されている箇所が見受けられる等、今後、変化していくことも予想される。



戸出吉住地区内の様子



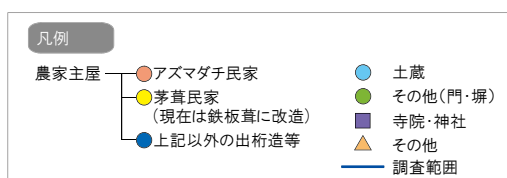
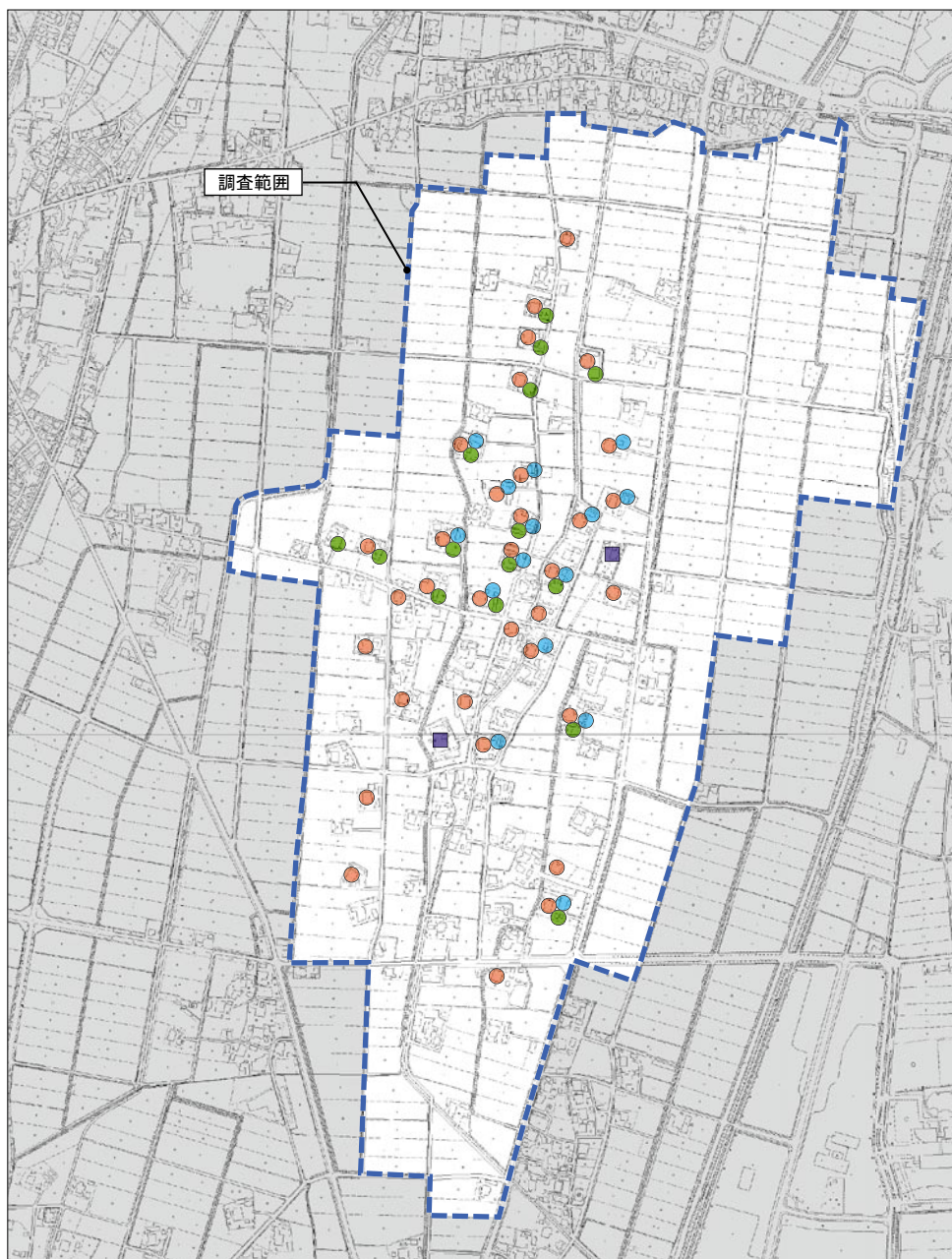
地区内の散居の様子
アズマダチ民家やカイニョ、土蔵等農家の屋敷構えが残されている。



地区内の散居の様子



地区内の神社（吉住熊野神社）の様子



戸出吉住地区の残存・分布状況

○勝木原・福岡町沢川・福岡町小野地区（山村集落）

上記3地区に関しては、「③調査のプロセス (type2-2)」に示したように調査を実施した。この3地区に関しては山村であり、集落単位が明確であったので、調査地区は該当集落の全棟が対象となるように設定した。

山裾部や平野部の散村・集村集落と異なり、全体的に塀や門等屋敷を囲う工作物があまり見られないのが特徴である。

勝木原・福岡町小野地区は、主屋がアズマダチ民家や出桁造である農家が比較的良好に残存していた。

福岡町沢川地区は、アズマダチ民家や出桁造の主屋の中に、茅葺民家（現在は茅葺の上に鉄板が葺かれていると想定される）が散見される集落であり、市内では茅葺民家がある程度まとまって残存している集落はほとんど無いため、大変貴重であるといえる。空家や老朽化の見られる民家が散見され、懸念事項といえる。

土蔵に関しても上記3地区は残存状況は良く、中塗仕上げのものが比較的多く見られた。



勝木原地区の様子



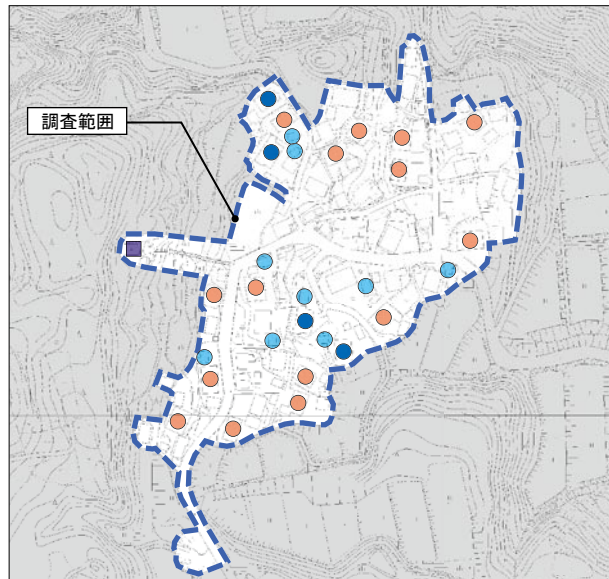
福岡町小野地区の様子



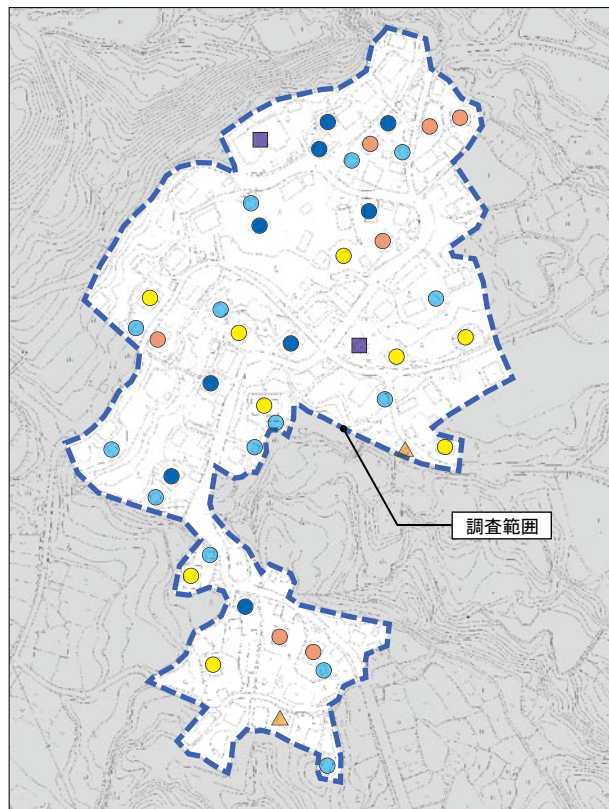
福岡町沢川地区の様子



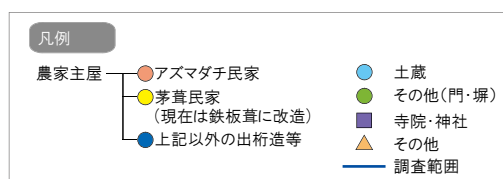
福岡町沢川地区内の茅葺民家
（現在は鉄板葺に改修されている）



勝木原地区の残存・分布状況

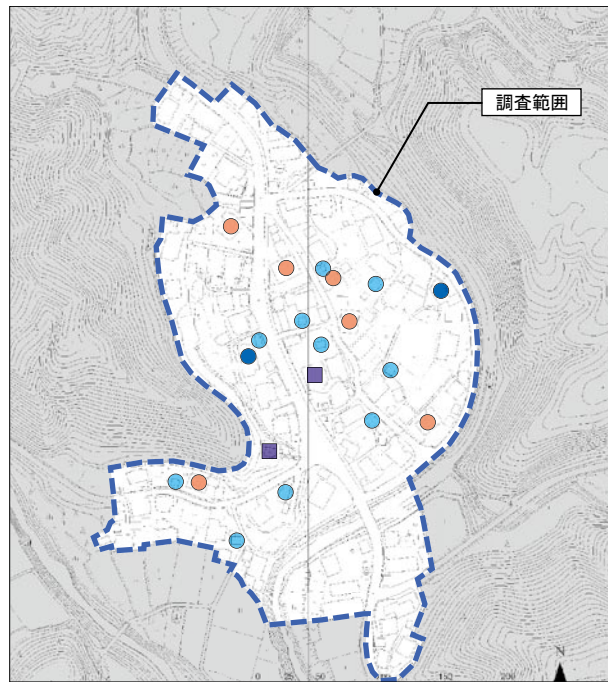


福岡町沢川地区の残存・分布状況

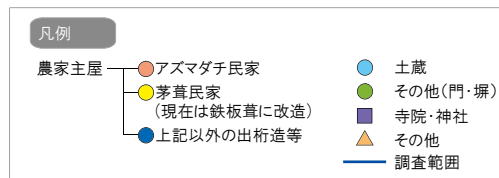


0m 50m 100m 250m





福岡町小野地区の残存・分布状況



2-2-2 文化財の概要

本節では、高岡市の文化財について概要を述べる。

前述したように、本市においては、「指定などの措置がとられているか否かに関わらず、高岡市の風景、生活文化に寄与しているもの」を「文化財」と位置付けた。

位置付けに基づいて、本構想ではこれまで価値が見落とされがちであった文化財も拾い上げるために、文化財を以下のように「自然環境」「生活空間」「伝統文化」の3つの視点から捉え直し、網羅的に拾い上げた。

○自然環境

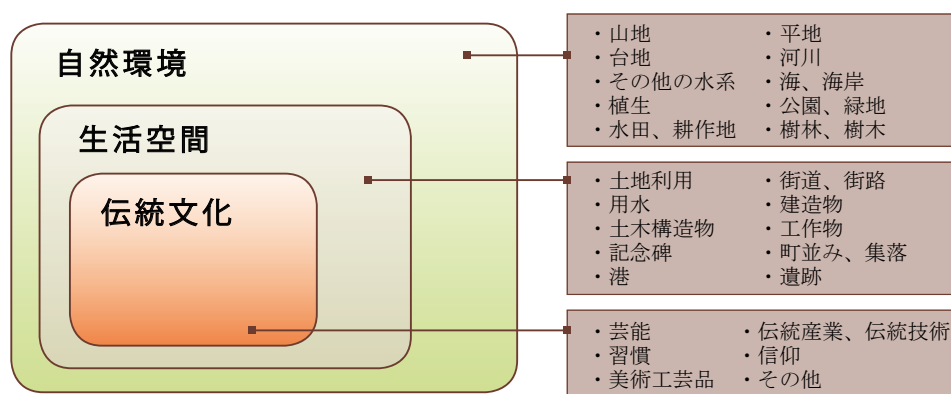
山地・平野・台地、河川、海などにおける地域固有の自然地形や植生、気候などの自然環境は、人の営みの土壌でもあり、文化財の基盤とも言える。自然環境は、都市空間や伝統文化など文化財を取り巻く環境であるとともに、時にはそれらが一体となった総体を文化財としてとらえることもできる。地勢という以上に、人と共存してきた証の見られる環境を示すこととする。

○生活空間

生活空間は人の営みによって形成されてきた多様な空間であり、風景の中に視覚的に表れることの多い要素である。原則として地図上に表すことのできる不動産を示す。

○伝統文化

伝統文化は、人の営み（活動）そのものであり、その歴史は生活や産業、作品の中に表れている要素である。原則として人々の営みとして受け継がれている動産を示す。



高岡市における文化財のイメージ

① 自然環境

山地	01 二上山、西山丘陵 02 立山連峰への眺望	海、海岸	11 雨晴海岸
平地	03 砺波平野 04 射水平野	植生	12 植生
台地	05 高岡台地 06 佐野台地	公園・緑地	13 高岡城跡 (高岡古城公園)
河川	07 庄川とその支流 08 小矢部川とその支流 09 千保川	水田・耕作地	14 小矢部川左岸 15 砺波平野(市南部) 16 山村部
滝	10 五位の滝の沢	樹木・樹林	17 カイニョ 18 往還松 19 保護・保存樹木
		生物	20 生物

② 生活空間

土地利用	21 土地利用 22 字界	記念碑	35 記念碑
街道・街路	23 主要な歴史的街道 (北陸道、山根道等) 24 旧城下町の街路 25 高岡御車山祭の巡行路 26 伏木曳山祭の巡行路	町並み・集落	36 旧城下町の町並み 37 歴史的街道沿いの町並み 38 みなとまち 39 寺内町 40 山村 41 集村 42 散村
用水	27 用水 28 集落内の水路	港	43 伏木港
建造物	29 伝統的建造物 30 祠	遺跡	44 遺跡 45 古墳 46 城跡 (高岡城跡、守山城跡 等)
土木構造物 工作物	31 用水の水門 32 橋(対港橋、石橋 等) 33 高岡古城公園の石垣 34 宝篋印塔		

③ 伝統文化

芸能	47 城下町ゆかりの祭礼行事 48 みなとまちゆかりの祭礼行事 49 古代信仰の 本義をよく残した祭礼行事 50 獅子舞 51 その他祭礼行事 52 雅楽 53 前句 54 越中万葉歌	習慣	63 雪つり 64 座敷飾り 65 儀式食 66 季節の節目の飾り 67 茶室
伝統産業 伝統技術	55 鋳物技術 56 高岡銅器 57 漆工技術 58 高岡漆器 59 金工技術 60 高岡仏壇 61 菅笠製作技術、菅笠 62 薬関係	信仰	68 町中・集落の寺院・神社 69 石仏
		美術工芸品 (指定物件含む)	70 歴史資料 71 古文書 72 絵画 73 彫刻 74 工芸品 75 書跡 76 典籍 77 考古資料
		その他	78 町名 79 方言(職人言葉 等)

前頁で提示した「自然環境」、「生活空間」、「伝統文化」の3つの視点に基づき、本市の文化財を以下に紹介する。

① 自然環境

山地



01 二上山



01 西山丘陵



02 立山連峰への眺望

河川



07 庄川とその支流

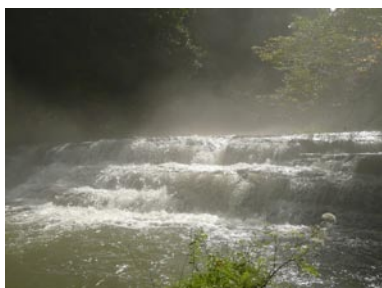


08 小矢部川とその支流



09 千保川

滝



10 五位の滝の沢

海・海岸



11 雨晴海岸

公園・緑地



13 高岡城跡（高岡古城公園）

水田・耕作地



14 小矢部川左岸

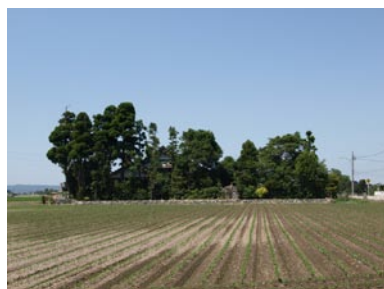


15 砺波平野（市南部）



16 山村部

樹木・樹林



17 カイニヨ

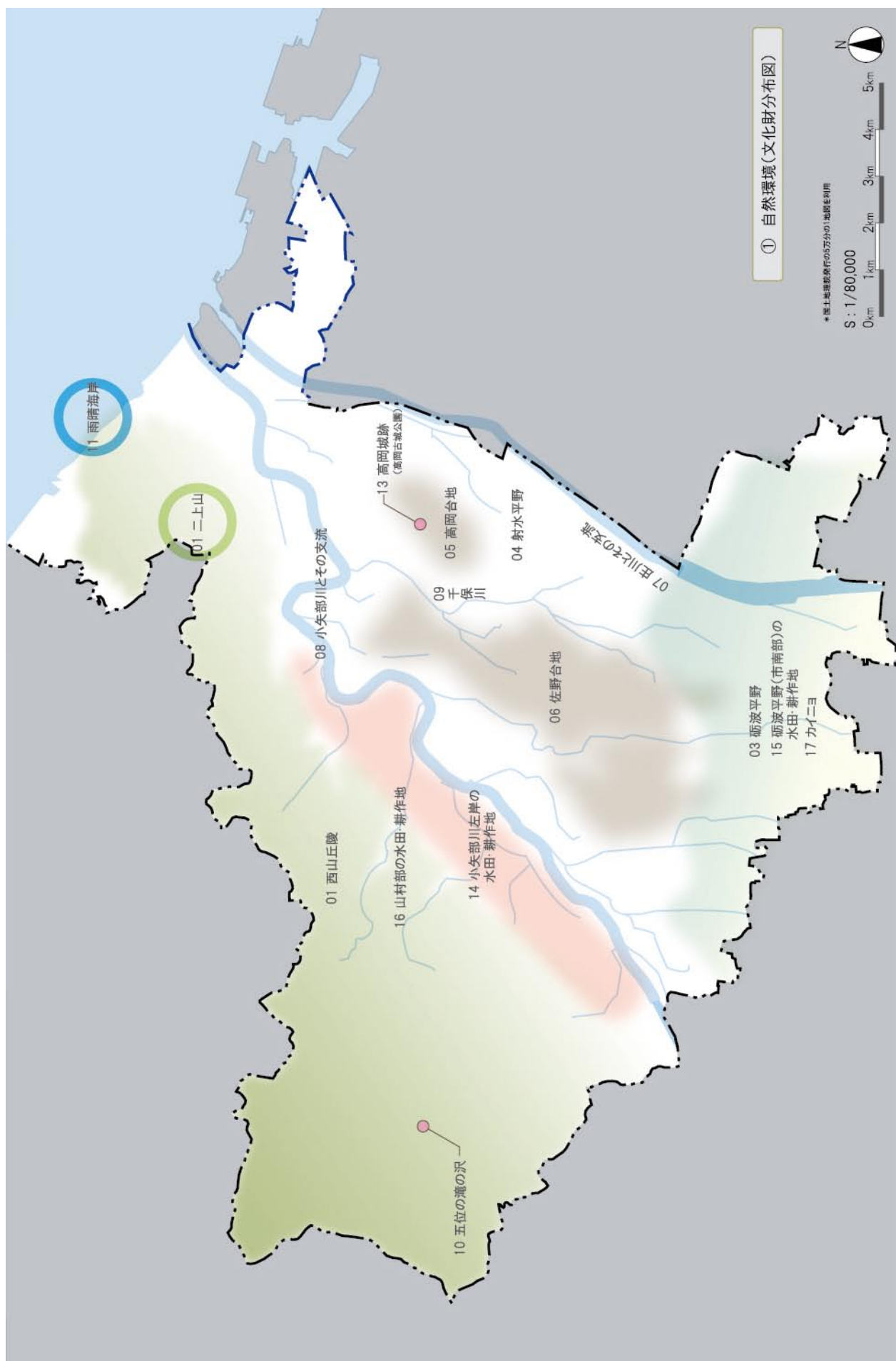


18 往還松



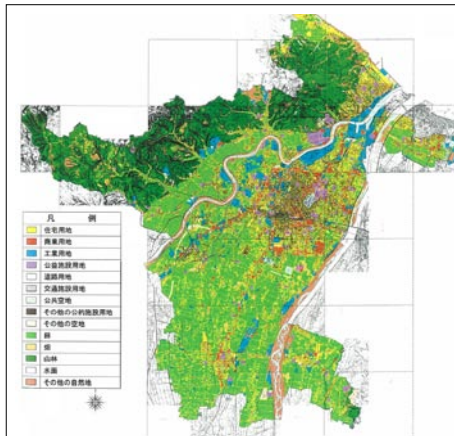
19 保護・保存樹木

※ 03 砺波平野、04 射水平野、05 高岡台地、06 佐野台地等については次ページ図参照



② 生活空間

土地利用



21 土地利用



22 字界

街道・街路



23 主要な歴史的街道

24 旧城下町の街路

25 高岡御車山祭の巡行路

26 伏木曳山祭りの巡行路

用水



27 用水
(主要用水の位置図)



27 用水



28 集落内の水路

建造物

29 伝統的建造物



町家
< 登梁形式 >



町家
< 腕木形式 >



町家
< 土蔵造 >



アズマダチ



洋風建築



看板建築

(伝統的建造物 続き)



蔵
農家



蔵



塀・門など



散居村



主屋



主屋

神社・寺院



神社
(国・重要文化財 氣多神社本殿)



寺院
(国宝 瑞龍寺)



庫裡

その他



前田利長墓所
(国指定史跡)



旧伏木測候所庁舎
(国・登録有形文化財)



旧南部鑄造所
キューボラ・煙突
(国・登録有形文化財)



30 祠

土木構造物・工作物



31 用水の水門



32 橋
＜対港橋＞



32 橋
＜石橋＞



33 高岡古城公園の石垣



34 宝篋印塔

記念碑



35 記念碑
＜与四兵衛顕彰碑＞



35 記念碑
＜越中国府址＞

町並み・集落



高岡市内の主な歴史的町並みと集落・歴史的街道

36 旧城下町の町並み



<山町筋>
(国・重要伝統的建造物群保存地区)



<金屋町>

37 歴史的街道沿いの町並み



<旧北陸道：福岡地区>



<戸出・中田往来：中田地区>



<戸出・中田往来：戸出地区>

38 みなとまち



<守護町地区>



<吉久地区>



<伏木地区>



39 寺内町
＜勝興寺寺内町＞



40 山村
＜舞谷地区＞



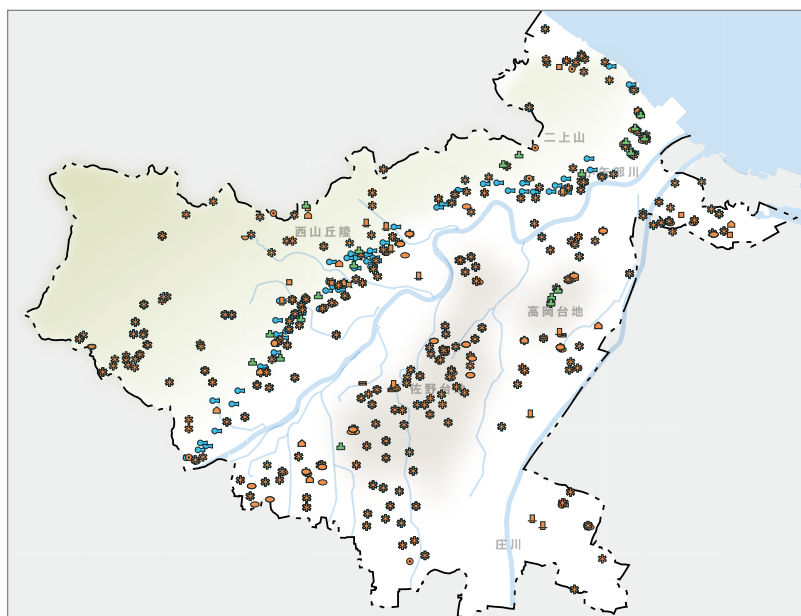
42 散村
＜中田配水池より＞

港



43 伏木港

遺跡



- 凡例
- | | |
|-------------------|--|
| 44 遺跡
(水田・集落等) | <ul style="list-style-type: none"> ● 集落 ▲ 貝塚 ✚ 官衙 田畑 製塩 墓 交通 窯 社寺 散布地 祭祀・経塚 その他(集石・洞穴) |
| 45 古墳 | ● |
| 46 城跡 | ■ |



44 遺跡
＜須田藤の木遺跡＞



45 古墳
＜江道横穴古墳群＞

③ 伝統文化

芸能

47 城下町ゆかりの祭礼行事



< 高岡御車山祭の御車山行事（宵祭）>



< 高岡御車山祭の御車山行事>
(国 重要有形・無形民俗文化財)



< 与四兵衛祭 >

48 みなとまちゆかりの祭礼行事



< 伏木神社春期例大祭の祭礼行事>
(市・無形民俗)



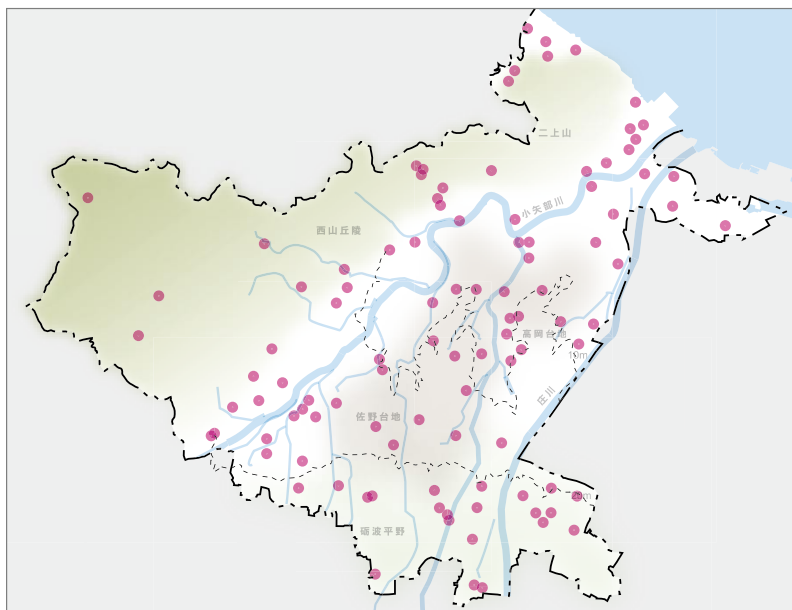
< 伏木神社春期例大祭の祭礼行事>
(市・無形民俗)

49 古代信仰の本義をよく残した祭礼行事



< 二上射水神社の築山行事>
(県・無形民俗)

50 獅子舞



凡例 ● : 獅子舞が行われている箇所



< 獅子舞 >



51 その他祭礼行事
くつくりもんまつり（福岡地区）＞



52 雅 楽



54 越中万葉歌

伝統産業・伝統技術



55 鋳物技術



56 高岡銅器



57 漆工技術



58 高岡漆器



59 金工技術



60 高岡仏壇



61 菅笠製作技術と菅笠
（国・重要無形民俗）



62 薬関係

習慣



63 雪つり

信仰



68 町中・集落の寺院・神社

69 石仏

美術工芸品

72 絵画



<達磨図>
(市指定)



<紙本金地著色洛中洛外図六曲屏風(右隻)>
(国・重要文化財)

73 彫刻



<木造千手観音坐像>
(国・重要文化財)



<木造男神坐像>
(国・重要文化財)

74 工芸品



<木蓮に小禽金具>
(市指定)



<景岸焼三組大鉢>
(市指定)

70 歴史資料



＜勝興寺宝物： 実如筆六字名号＞
（県指定）

＜前田家寄進の宝物： 狩野安信筆鷺図＞
（市指定）

71 古文書



＜杉野家古文書＞
（市指定）



＜仁安の御綸旨＞
（市指定）

75 書跡



＜武田耕雲斎書＞
（市指定）



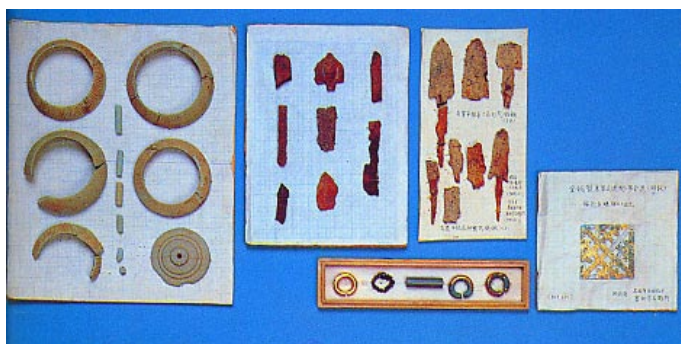
＜長屋八内書＞
（市指定）

76 典籍



＜孟子抄＞
（中央図書館蔵、市指定）

77 考古資料



＜桜谷古墳付近出土品＞
（市指定）



＜珠洲焼刻銘経外容器＞
（市指定）

2-3 歴史と文化財の特性

本項では、これまで整理した高岡市の歴史や文化財の特徴から、本市の時代特性と地域特性をそれぞれ見出し、次章「高岡市の文化財の総合的把握」における関連文化財群及び保存活用区域の設定や保存・活用方針等の手がかりとする。

● 時間軸から見出される時代特性

原始

農耕文化の開花と集落の形成

古代

二上山麓・西山丘陵の古墳群築造

越中国府と国守・大伴家持

二上神と古代信仰

中世

源氏・平氏と南北朝の動乱

勝興寺の成立と一向一揆の争乱

近世

前田利長による高岡城下町開町

前田利常による高岡の再建～商工業都市への転換～

加賀藩農政の確立～改作法の施行～

高岡町が育んだ工芸技術

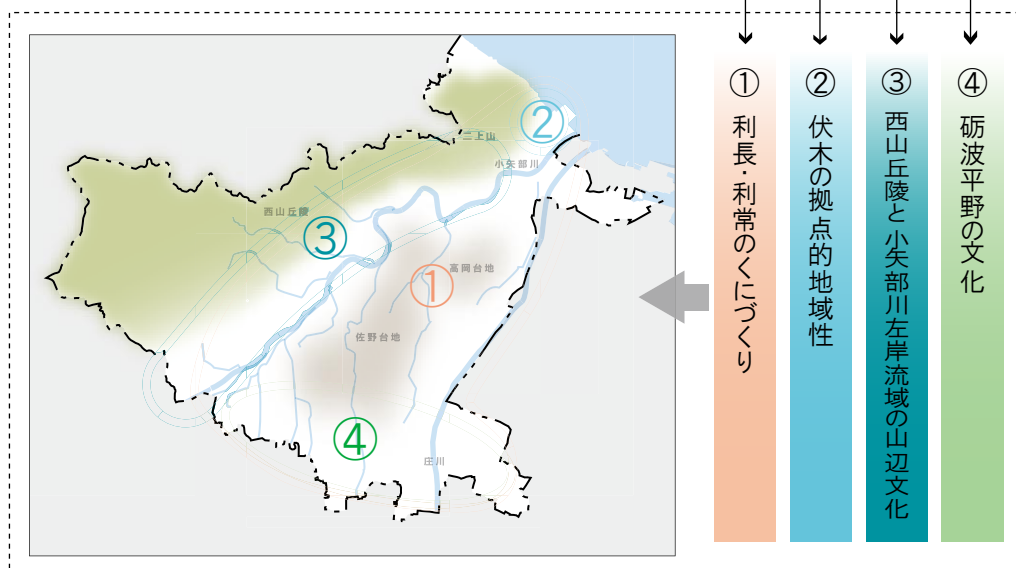
伏木浦の繁栄～北前船航路の発達～

近代

近代都市への転換

商都・高岡の隆盛

● 歴史の重層性から見出される地域特性



歴史の重層性から見出される地域特性

● 歴史の重層性から見出される地域特性

① 利長・利常のくにづくり

現在の高岡中心市街地は、加賀藩2代藩主・前田利長により近世初期に高岡台地上に形成された高岡城下町を礎としており、当時の街道や街路計画、町割の骨格が受け継がれている。また、利長死後、高岡は利常により城下町から商工業都市へと転換し、高岡町の金工や漆工、鋳物などの工芸技術や周辺農村部の農産物の生産性の向上・流通ルートの確立が図られ、藩の財政を支える地域の発展を促した。近世の商工業都市としての性格は、今日の高岡市の産業発展の背景ともなっている。

② 伏木の拠点的地域性

旧石器時代より人々の営みがみられた伏木地区は、古代は越中国府の国庁や国分寺が集まる地方政治の中心地として機能した。伏木は早くから小矢部川の卓越した水運機能や河口部の港津機能を背景に独自の拠点として発展した地域であり、現在に至るまで、日本海の玄関口として流通・交易の拠点機能を担っている。また一方で、中世には越中における浄土真宗本願寺派の地方中核寺院として権勢を奮った勝興寺が古代の越中国府跡推定地に建立され、その周囲に寺内町が形成された。勝興寺と寺内町は近世の藩政時代も引き続き独自のコミュニティを保っていた。

③ 西山丘陵と小矢部川左岸流域の山辺文化

西山丘陵と小矢部川左岸流域の間に広がる山辺の一带は、原始の時代から人々の営みがみられた地域である。庄川の氾濫による水害が比較的少なく安定した地域であったこの地域には、古代の有力な豪族の根拠地であったことを窺わせる無数の古墳群や横穴墓群、越中国府による東大寺荘園の比定地などが見出されている。また、中世には西山丘陵縁を縦断していた山根道を背景として、源平の争乱や一向一揆に関連する山城や寺院が数多く建てられた。中山間部では近代まで木材資源をはじめ、薪炭や田畑の肥料源（刈草）として重用された。現在も続く生産業として菅田・菅笠づくりが伝わる。

④ 砺波平野の文化

砺波市から高岡市にかけて続く砺波平野には、庄川が形成した広大な扇状地が広がっており、日本有数の水田耕作地帯となっている。庄川扇状地の扇端部に位置する高岡市南西部には、この地域特有の散居村がみられ、カイニョやアズマダチの住居と田園が織り成す美しい農村景観が広がっている。また、戸出や中田周辺では、近世に加賀藩に推奨された特産物が生産形態を変えながら継続している。

● 高岡市の文化財の背景に息づく人々の精神性

■ 土地や人に根ざした信仰と祭りの精神

古代の二上神信仰や在所の社の土地に根ざした信仰や、中世より広まった多様な仏教信仰は、高岡における文化財の形成の歴史を語る上で重要な意味を持っている。また、信仰と深く結びついている祭礼行事は、古来から現在まで脈々と継承されてきたものや、民衆の営みと密接に結びつき、多彩な変容や広がりを見せたものなどがあり、町筋や集落など、様々な規模のコミュニティで執り行われている。

■ 商都・高岡が培った「ものづくり」の精神

前田利長による高岡城下町の統治時代を終えた後、高岡は利常による様々な改革により、一大生産・集散地への転身を図り商都として生まれ変わった。この時代に培われたものづくりの精神は、単なる伝統工芸技術の継承に留まらず、化学技術への応用や学校教育での取り組みなど様々な分野へと波及し、現在の高岡市の歴史文化を特徴付ける重要な要素へと成長している。

時代区分	西暦	国内の主な出来事	政治	産業	流通・交通	文化
旧石器	約10000年前					
縄文	約3000～1000年前					
弥生	3世紀	大和政権が畿内・河内・近江に古墳出現	（大和王権の影響が波及） 古墳＝在地の権力者あり 小矢部川左岸地域に多い	稲作 石炭遺跡 農耕文化定着か （小矢部川河口） 古墳群 正片等	水運	
古墳	4世紀					
	5世紀					
	6世紀					
飛鳥	7世紀	大化の改新	不明？			
奈良	8世紀	710 大和政権成立 710 平城京遷都 723 三世紀一統の法 723 聖武天皇即位 723 聖武天皇即位	（唐・中国） 723 唐・中国 723 唐・中国	（唐・中国） 723 唐・中国 723 唐・中国	（唐・中国） 723 唐・中国 723 唐・中国	（唐・中国） 723 唐・中国 723 唐・中国
平安	9世紀					
	10世紀					
	11世紀					
鎌倉	12世紀					
	13世紀					
	14世紀					
室町	15世紀					
安土・織田	16世紀					
江戸	17世紀					
	18世紀					
明治	19世紀					
大正	20世紀					
昭和	21世紀					
平成	22世紀					

高岡市における歴史と文化財の相関図